



第79号

歴史と暮らしの赤れんが博物館



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

宮本常一が見た広島



写真提供：周防大島文化交流センター

「旅する民俗学者」と称されるほど、生涯のほとんどを旅にすごした宮本常一(1907～81)が、1951年(昭和36)1月13日に撮影した一枚の写真。紙屋町のバスセンターからバスに乗って大竹方面へ行く途中、おそらく車窓から撮られたものです。これは一体何を撮ろうとしたのでしょうか。「マルキ」をたよりに場所を特定してみると、現在のJR西広島駅前であることがわかりました。とすれば、この道は旧西国街道にほかならず、写っている樹木はいわゆる街道松と思われます。一方、「マルキ」の看板に「セルフサービスの店」とありますが、これは昭和30年代に増え始めた、いわゆるスーパーマーケットの業態を意味します。消え行くものと新しいもの、瞬時にこれらを一枚に収めようと考えたのかもしれない。(大室 謙二)



ひろしま郷土資料館だより

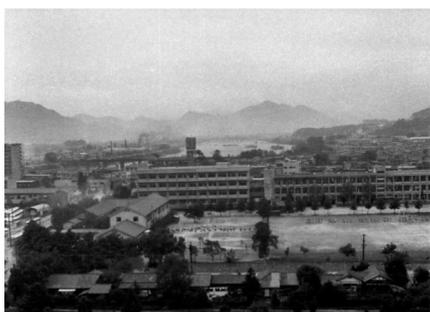
平成21年度後半（10月～3月）に実施した事業

特別展「宮本常一と広島」 2009.10/17～12/20



京橋川の河岸。宮本の撮影した広島の写真にはこのような河岸住宅を撮影したものが多い。

1962年（昭和37）5月2日



広島城天守からの写真は複数年次にわたり、定点撮影的なものとなっている。

1965年（昭和40）9月20日

宮本常一は、その膨大な著作とともに、約10万点ともいわれる写真を遺したことで知られています。今回の展示では、そのうち広島を撮影した写真を紹介することを展示の中心テーマとしました。展示は、①写真でつづる宮本常一②宮本常一が歩いた日本 昭和37～39年③宮本常一と広島で構成し、①では宮本の来歴や事績、②では宮本が昭和37～39年に歩き撮影した全国の写真をそれぞれ周防大島文化交流センターが制作したパネルをもとに紹介しました。③では宮本が撮影した広島および周辺の600点のうち、200点をえらび、大きく市街、湾岸、河岸と撮影エリアを分け、宮本が広島の何に着目しシャッターを切ったのかを探るとともに、同じ場所を撮影した関係写真や現況写真を紹介することで広島の街の発展や変化をたどれるようにしました。

宮本が撮影した広島の写真がこれほどの規模で展示されたことははじめてであり、広島の戦後史を見ていく上でも貴重な機会となったと思います。

最後になりましたが、周防大島文化交流センターをはじめ、貴重な資料をご提供いただいた方々、さまざまご

指導・ご助言をいただいた方々に厚くお礼申しあげます。

特別展関連イベント

講演会 11月29日（日）

演題及び講師：

- ①「宮本常一文庫の魅力とその活用」
高木泰伸氏（周防大島文化交流センター学芸員）
- ②「風の人 地の人—宮本常一と広島」
佐田尾信作氏（中国新聞編集委員）



埋立前の丹那の港。大きく変貌を遂げる仁保付近。子どもたちが写生している。

1961年（昭和36）11月20日

写真提供：周防大島文化交流センター

（大室 謙二）

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」 2009.9/5～2010.2/7



新美南吉の童話『ごんぎつね』は、小学校4年生の国語の教科書にも掲載され、発表から78年を経た現在も多くの人々に親しまれている作品です。今回の企画展では、物語の内容に沿うかたちで、そこに描かれている昔の風景を再現したり、登場する生活道具等を展示することで、昔の人々の暮らしぶりを紹介しました。平成13年度に始まった「ごんぎつね」の展示も、資料館の秋の展示として定着してきましたが、今年も期間中多くの方にご来館いただきました。

展示室入口では、南吉のふるさとであり物語の舞台となった愛知県半田市岩滑の町並みを、今回新たに撮影した写真を交えながら紹介しました。あわせて南吉が雑誌『赤い鳥』に投稿した『権狐』や、昭和40年代以降の国語教科書に掲載された「ごんぎつね」を展示しましたが、大人の来館者からは「挿し絵を覚えている」「とてもなつかしい」といった感想も聞かれました。

展示室では、物語の様々な場面を再現しながら、農村の人々の暮らしぶりを収蔵資料や写真を交えて紹介しまし

た。期間中多くの小学生が来館されましたが、社会科で学習した「古い道具と昔の暮らし」との関連もあり、展示されている昔の道具について熱心にメモをとる姿があちこちで見られました。また、道具の使い方等についてたくさんの質問をいただきましたが、とくに火縄銃については関心の高さがうかがえました。国語の授業で「ごんぎつね」をすでに学習されたという方、これから学習するという方もいらっしゃいましたが、見学いただくことで「昔の暮らしの様子」や「ごんぎつねの魅力」を少しでも感じていただけたのではないのでしょうか。

関連事業としては、9月12日(土)に「糸紡ぎ体験」、9月19日(土)に「ごんの人形づくり」、10月3日(土)

に「石臼で月見団子づくり」、10月10日(土)に「ごんまんじゅうを作ろう」を実施しました。すべての教室に多くの方にご参加いただきました。毎週日曜日には約20分間の展示ガイドを行いました。家族連れで来館され、昔の道具や暮らしについて語り合う様子も見られました。

来館者からは「ぜひ来年度もごんぎつねの展示をしてほしい」という言葉を多数いただきました。このような期待にお応えできるよう、展示内容をさらに充実させ、学習の場として、また家族の語らいの場としての役割を果たせていけたらと思います。

(牛黄著 豊)



展示の様子

企画展「お花見」2010.2/20~4/4

「お花見」は、桜の下に人々が集いにぎやかに飲食や歌舞音曲を楽しむ春の行事として、昔から親しまれています。本展では、貴族や武士の雅な観桜だった花見に始まり江戸時代には庶民の行楽として広く浸透し現代に続くお花見のうつりかわりを紹介し、東照宮や比治山、長寿園など広島での花見の名所今昔などを比較しながら紹介しました。

一方、我が国の各地で春先に「山遊び」「野遊び」などと称して弁当を持ち野山に出かける習俗が見られますが、これを広島では「花見」「(花見) 節供」と呼び、旧暦3月3日、新暦移行後は4月3日に広く行っていました。この日はお花見の日として決まっていたから、「花が咲かなくても」野山に出かけ楽しんでいたといえます。山遊びには、農耕が始まる前に屋外に出て田の神を迎え飲食をともにする意味がありましたからお弁当は欠かせません。

お花見の楽しみ・お花見弁当については、展示では江戸時代の料理本に現れる豪華な花見重の再現写真、提重、酒を入れ持ち歩いたひさごを展示するとともに、広島市域何か所かの方に昔の花見の様子をうかがって紹介し、併

せて戦前から昭和30年代ころまで食べられていた広島の一般的なお花見弁当を再現展示しました。

来館者のうち特に4月3日の花見を経験されていた世代の方々には「うちも行ったよ」「お弁当には〇〇が入った」など、なつかしように語ってくださる方も多く、展示をきっかけにお花見に関する思い出や記憶を掘り起こすことができました。

関連事業としては小学生対象の教室で3月13日(土)に「花見団子作り」を行いました。江戸時代の遊び「紋切」で桜の花を切りぬいた後、三色の串団子を作っていただきました。また、落語にはお花見を題材にした噺もたくさんあることから、3月21日(日)に「お花見寄席」も開催。芸達者ぞろいの子ども落語塾の5人とその講師をつとめられている六ッ家千艘さんの熱演を楽しんだ後は、体験コーナーで手作りの関東風桜餅もお楽しみいただきました。

展示室廊下やロビーも桜の造花を華やかに飾りつけお花見の雰囲気を出しましたが、おししも展示終了の週末に当たる4月3日は広島のお花見日和となりました。

(前野 やよい)



花見団子作り



展示室の様子



お花見寄席



ひろしま郷土資料館だより

★ 伝統的な物づくりや、昔ながらの遊びを体験する教室。幼児対象のものから大人も参加できるもの、大人向けのものまで、多彩な事業を行いました。



教室：匂の芋蒸しパン作り

教室事業

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 10月3日(土) 石臼で月見団子作り | 1月23日(土) 磯の香り！ノリススキ体験 |
| 10月10日(土) ごんまんじゅうを作ろう | 30日(土) |
| 11月14日(土) ロウケツ染め | 2月13日(土) 広島発祥！ |
| 11月21日(土) お抹茶体験とお菓子作り | 14日(日) バウムクーヘン作り |
| 12月12日(土) 匂の芋蒸しパン作り | 2月19日(金) とうふづくりにチャレンジ |
| 13日(日) | (大人向け) |
| 12月19日(土) もちつき体験 | 2月27日(土) 折り染めのひな人形 |
| 20日(日) | 28日(日) |
| 1月9日(土) まゆ玉で人形作り | 3月6日(土) わらざうり作り |
| 10日(日) | 3月13日(土) 花見団子作り |
| 1月17日(日)江戸時代のカキ船料理再現 | 3月20日(土) 磯の香り！ノリススキ体験 |
| (大人向け) | |

館外活動・ボランティア

★ 館外での講演や講座、工作教室での指導などの記録です。また、今年度も3施設合同ボランティアの皆さんには様々な事業で活躍していただきました。新しいメンバーも迎え、3回目のボランティアフェスティバルも大いに盛り上がりました。

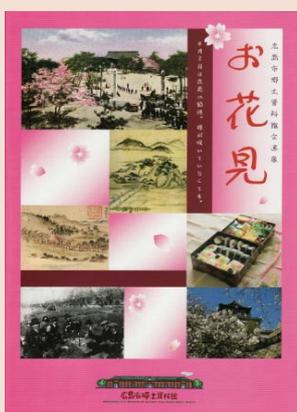
- 10月4日(日)
植物公園秋のグリーンフェア2009で
文化財課と「粘土のミニチュアはにわ作り」
- 10月18日(日)
歴史系3施設合同ボランティア研修会で
「宇品めぐり」
- 11月15日(日)
歴史系3施設合同ボランティア研修会で
「朗読ボランティアを迎えて」
お話：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
ボランティア桂幾子さん
- 11月19日(木)
被爆者の方のゆっつりのびのび交流日
「手先を使って脳刺激」藍色模様のハンカチ作成と藍の歴史の話
- 11月28日(土)
第17回中国地区合同手話研修会で講演
「カープと市民球場・そして新市民球場」
- 12月9日(水)
中山高齢者学級で講座
「身近な害虫防除の歴史」
- 12月21日(月)
広島市立大学で講義「博物館資料論」
- 12月22日(火)
ヒューマンレクチャークラブ郷土史講座で
「民俗学者宮本常一の見た広島」
- 2月21日(日)
歴史系3施設合同ボランティア募集説明会
- 2月23日(火)
あやめ幼稚園で教室
「折り染めのひな人形」
- 3月28日(日)
広島市文化財団ボランティアフェスティバル



出張事業：折り染めのひな人形



ボランティア研修：宇品めぐり



企画展パンフレット

「お花見」

A4版16頁 1冊100円

お求めは当館、または
広島市公文書館(243-2583)で

駄菓子作り広場 2009.11/3

11月3日に文化の日イベント「駄菓子づくり広場」を行いました。郷土資料館では、戦後の駄菓子文化や食文化の調査を行い、その成果を展示・教室事業などに活用しています。特に駄菓子関連の事業は大人にも子どもにも人気が高く、当館の代表的な事業です。

「カルメラ焼き」「綿菓子」「水あめ」などはなじみ深い駄菓子ですが、それらを体験したことがある世代は少なくなっています。イベントでは駄菓子を食べるだけでなく、自分で製作することにより、食文化やそれらの駄菓子の歴史などを知ってもらうことも目的としています。

ボランティアの方と一緒に駄菓子を作りながら、昔の食文化について対面で子供たちと話すことで、コミュニケーションをおし、遊びながら学ぶことの楽しさを参加者全員に知っていただくことができるのではないかと考えています。

当日は大勢の人でにぎわい、昼食時間もほとんどなかったですが、ボランティアの皆さんは疲れをみせず、頑張ってくださいました。ありがとうございました。

(小林 奈緒美)



一銭洋食づくり

平成22年度前半の特別展・企画展

まつもとせいちょうてん
特別展 **松本清張展** ～清張文学との新たな邂逅
【会期】4月22日(木)～7月11日(日)

松本清張文学の歴史を広島で紹介します。旺盛な探究心で数々の作品を生み出した作家活動に焦点をあて、国民的作家・松本清張の歩みを紹介します。

ひろしま いせき ほ
企画展 **広島**の遺跡を掘る
【会期】4月22日(木)～7月11日(日)

広島市内の発掘調査の成果をとおして、広島の古代に迫る！小学校6年生ではじめて古代の日本にふれる子どもたちも必見！

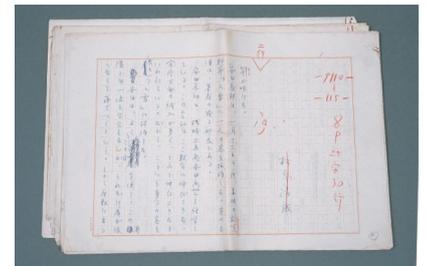
なつやす
夏休みイベント **おばけの夏休み**
【会期】8月4日(水)～8月31日(火)

今も昔も暑い夏はおばけの季節。今年も郷土資料館のおばけ屋敷で楽しもう。アステールプラザでも7月23日(金)～8月1日(火)に開催。

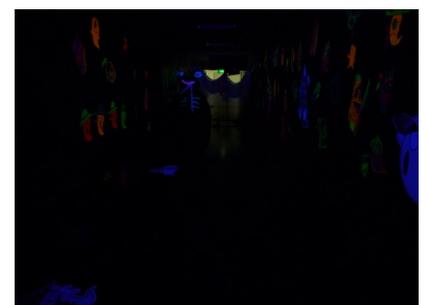
かた むかし
企画展 **「ごんぎつね」**が語る昔の暮らし
【会期】9月7日(火)～平成23年3月6日(日)

童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、作中に登場する昔の道具や情景を再現・展示して昔の人々の暮らしを紹介します。

★ 平成22年度も充実の展示や楽しいイベントで皆さんをお迎えいたします。ご期待ください。



松本清張『点と線』直筆原稿
北九州市立松本清張記念館写真提供



おばけの夏休み



ひろしま郷土資料館だより

平成21年度を振り返って

早いもので指定管理制度による館運営が始まって4年が経ちましたが、当館はこれまでにない斬新なアイデアや新しい分野への挑戦によって、高い評価をいただきました。これも皆様のおかげと感謝しています。

特にこの指定管理第1期の最終年度にあたる平成21年度では、特別展「宮本常一と広島」や企画展「夏休みの思い出」「お花見」といった広島の歴史民俗を当館学芸員の地道な調査と検証によって掘り起こし、貴重な資料を展示・収集・保存することができました。さらには、現在、積極的に推進していこうとしている他館との連携事業の一環として、「おぼけの夏休み」企画をアステールプラザと共催しましたが、予想を大きく上回る入館者がありました。

来年度からもこれまで以上にチャレンジ精神を忘れることなく、皆様の期待にそえる館にしていきたくと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

(館長 沼田 有史)



企画展「お花見」より
お花見の今昔ジオラマ

コラム 広島築港120周年目の墓参



「青山霊園」東京都港区南青山
(平成21年秋撮影)

みなさんは「青山霊園」（東京都港区）をご存知ですか。桜並木の続く約26ヘクタールの広大な墓地には、明治時代以降の著名人の墓も多くあります。管理事務所入口から早歩きで息絶え絶えに約10分。広島県知事であり宇品港（現広島港）の生みの親「千田貞暁」墓をようやく発見！「やっとお会いできました」と感無量。

千田氏は天保7年（1836）、薩摩藩（鹿児島）の武士の子として誕生し幕末・明治維新に青年期を迎え、戊辰戦争（1868～69）では、新政府軍の一員として旧幕府軍との戦いに参加しました。その後、明治政府の官僚としての道を歩み、1府5県の各知事もつとめ

ました。広島県には明治13年（1880）から9年在職し、その間千田氏の尽力により明治22年（1889）に宇品港が完成しました。晩年は東京にて貴族院議員もつとめ、明治41年（1908）4月23日に没しました。宇品築港の功績により明治27年（1894）、叙位・叙勲を授与し墓石には「正三位勲一等男爵千田貞暁墓」と刻まれています。

広島では、毎年命日に彼の功績をたたえる「千田祭」と「築港記念式典」が千田廟公園（南区宇品）で行われ、今年ももうまもなくその季節を迎えます。

(山縣 紀子)

ひろしま郷土資料館だより 第79号

【編集・発行】

(財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 / FAX (082) 253-6772

<http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/>

【発行年月日】

平成22年（2010）4月6日



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS